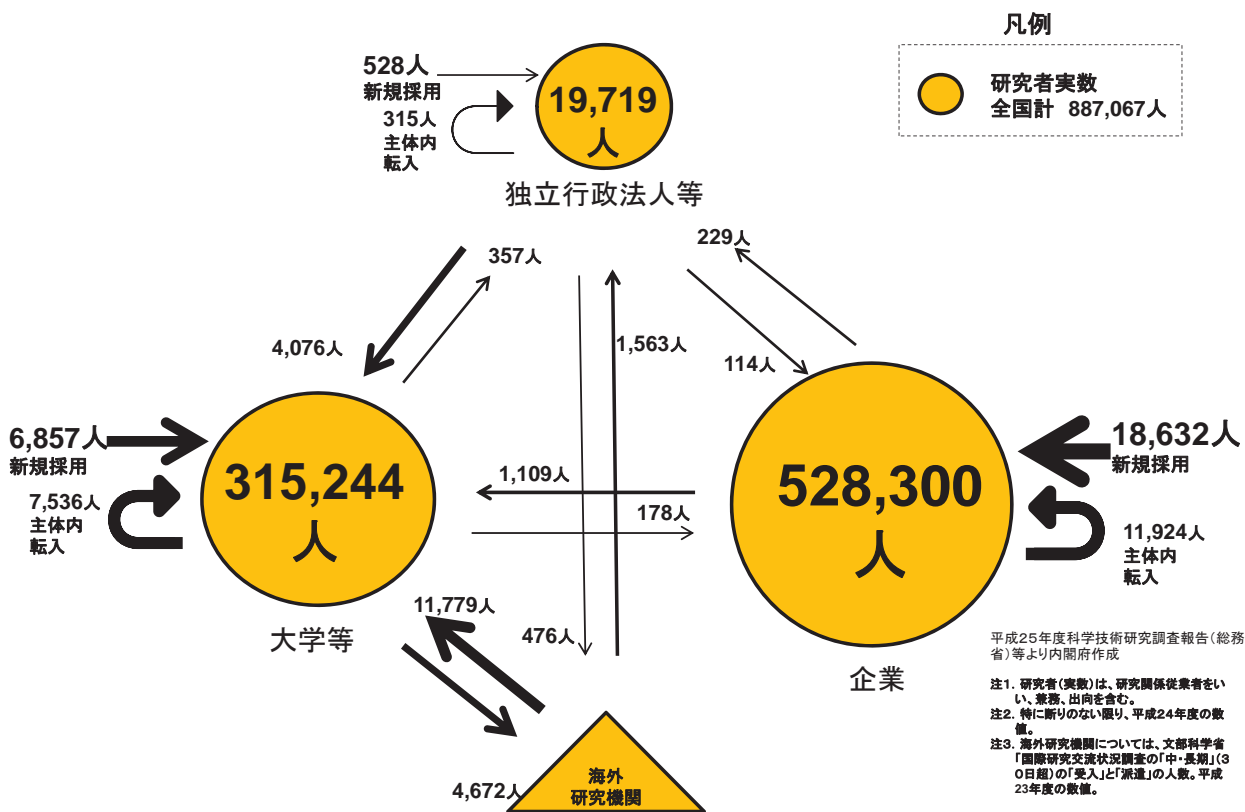
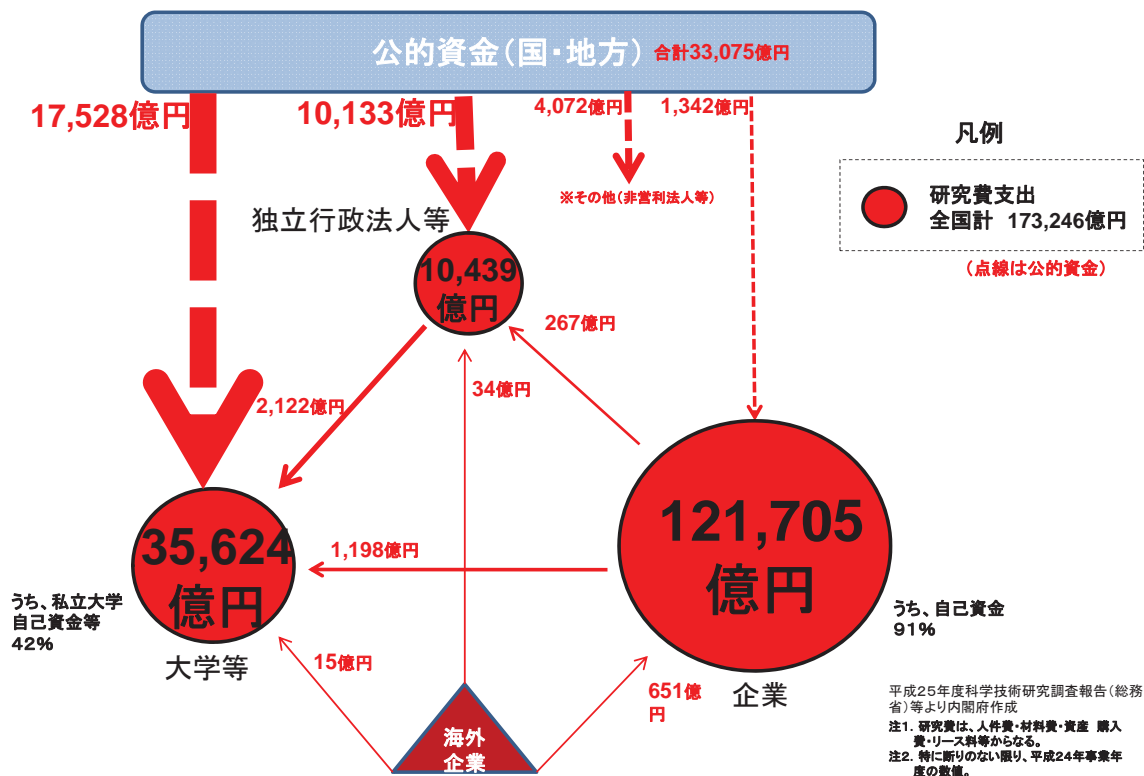


## ①-1: 人材の流動性

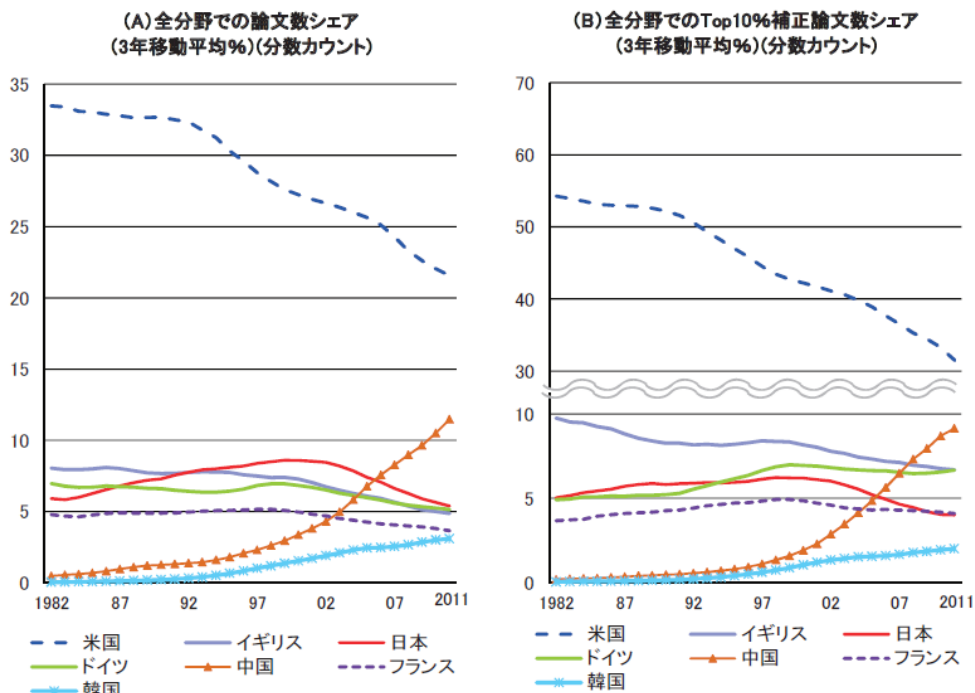


## ①-2: 資金の流動性



## ②:主要国の論文数シェア及びTop10%補正論文数シェアの変化

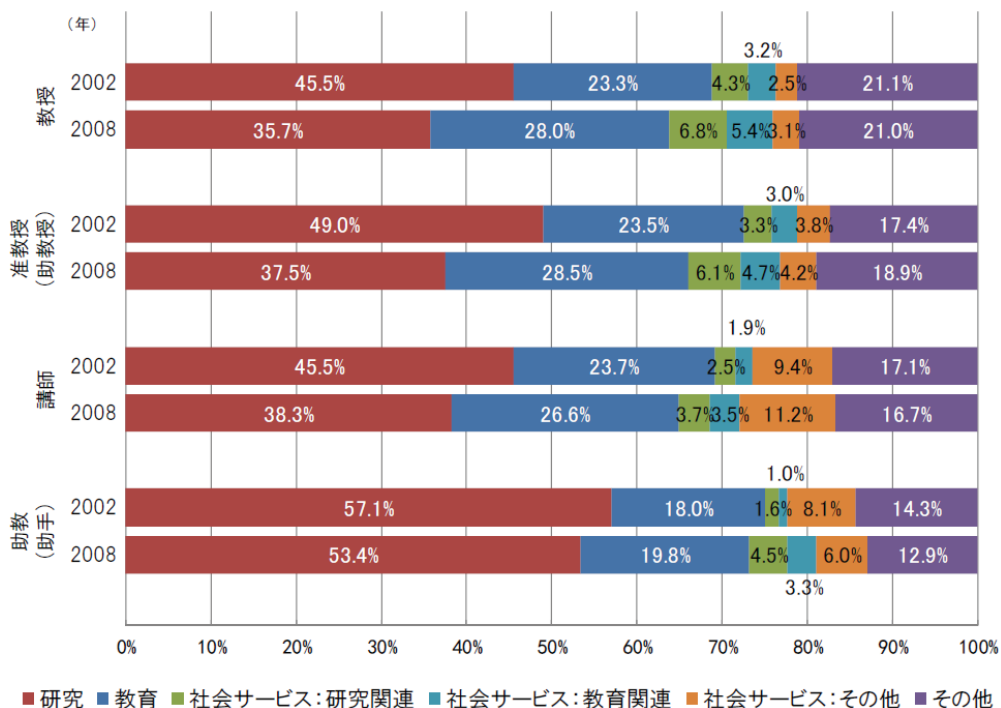
日本の論文シェアは2000年代初めより急激にシェアを低下させている。これに対して中国が急速に論文数シェアを伸ばす。



出典: 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2013」、2013年8月

## ③:職位別・活動別年間平均職務時間割合(全大学)

研究者の「研究」の年間平均職務時間割合は全ての年齢層で減少している

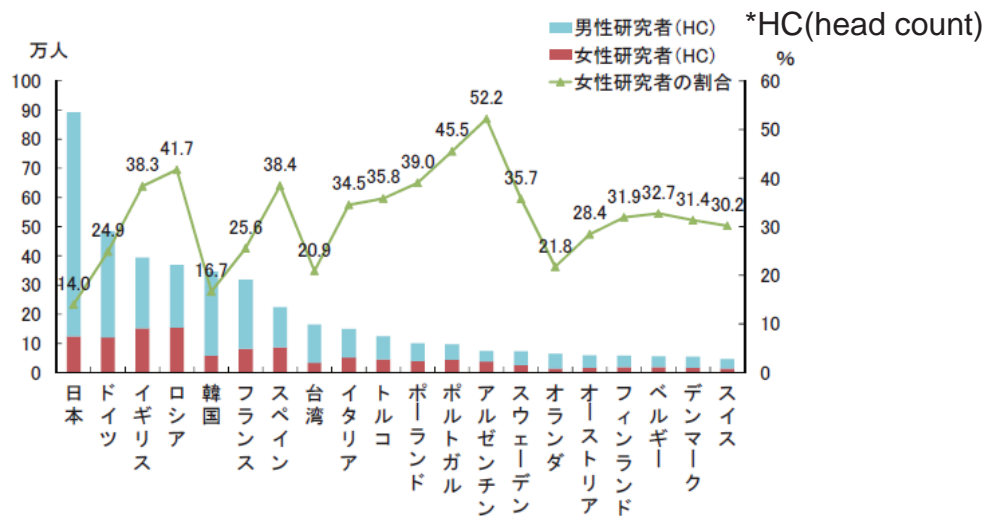


注: 大学の学部(大学院も含む)。括弧内は2002年調査時の名称

出典: 平成25年度科学技術白書

#### ④:女性研究者数の割合

我が国の女性研究者数はロシア、イギリスに次いで3位。しかし、全研究者数に占める割合は調査国中で最も小さい。

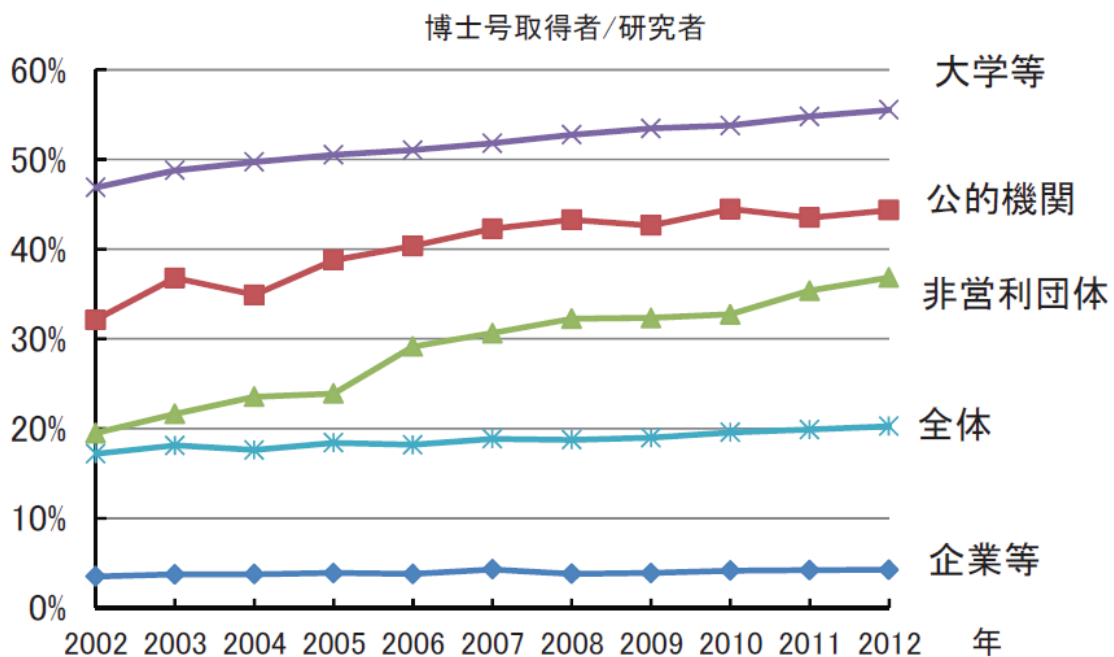


- 注: 1)日本は2012年、ドイツ、スウェーデン、オランダ、オーストリア、ベルギー、デンマークは2009年、スイスは2008年、その他の国・地域は2010年である。  
 2)実数である。  
 3)下記資料中に米国、中国のデータはない。  
 4)イギリスの値は国の見積もりまたは推定値。  
 5)ロシアの値は過小評価されたか、あるいは過小評価されたデータに基づいている。

出典: 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2013」、2013年8月

#### ⑤:部門別研究者に占める博士号取得者の割合

企業の博士号取得者の比率は、近年、5%以下で横ばいで推移している。



注: 「大学等」の研究者は、「教員」、「医局員その他の研究員」を対象とし、「大学院博士課程在籍者」を除いている。また、学外からの兼務者も除いている。

出典: 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2013」、2013年8月